

家庭教育通信

Vol.

24

監修:白井市家庭教育講座講師 富澤 優江

発行元:白井市教育委員会(教育部生涯学習課 492-1111 内 3431)

平成23年8月発行

「家庭教育通信」は、子どもたちの健やかな成長を願い、よりよい家庭教育について、皆で考え行動することを目指して、白井市教育委員会が情報を発信するものです。

『子育てのバランスとっていらっしゃいますか。。。?』



暑かった夏休みが終わりました。

節電が呼びかけられ、例年とは違った夏を過ごされた方もいらっしゃるでしょう。また、ふるさとへの帰省や旅行、お盆の来客の接待や仕事といつもと変わらない夏を送った方もいらっしゃると思います。けれど、どちらの場合も、子どもが毎日学校に通っている時とは生活のリズムが変わり、起床や就寝の時刻が遅くなり、それにつれて食事の時間も不規則になってしまったのではないのでしょうか。記録的な暑さでは、食欲も落ち冷たいものや飲み物が多くなり、食事もついつい偏りがちになってしまいます。そして、歯のケアも怠りがちになります。

先日テレビで子どもの歯についての特集が放送されていました。子どもの歯のほとんどが虫歯になって茶色く変形していたり、虫歯のために乳歯が失われてしまった写真が大きく映し出されました。それらは、痛みが強く急患として駆け込んできた例が多いそうです。応急処置をして投薬で痛みが止まると、そこで通院をやめてしまい、さらに悪化していく事例が増えているそうです。治療を止める理由を、親は『痛がらないから』『仕事が忙しくて通院する時間がないから』『乳歯は生え変わるから大したことがないと思っていた』等と言っているそうです。しかし、乳歯は食べ物をかむためだけのものではなく、子どもが一生使う永久歯が生えてくるための誘導役で、歯並びに大きく影響するのです。歯列の乱れは見た目だけでなく、磨きにくいので虫歯になりやすかったり顔の形や全身の骨格に影響を与えるとも言われています。よく噛むことはあごの発達にも必要ですし、食べ過ぎ・肥満の予防になり、脳の活性化につながるとして勧める学者もいます。発音やスポーツをする時にも歯は見えないところでその人を支えています。食物を噛んで食べることは、生きていくための基本であり、大きな喜びでもあり楽しみでもあります。子ども生涯の健康に関わってくるのです。虫歯は、歯磨きをすることで予防できます。

保護者の方の中には、ご自身が虫歯で痛い思いをしたり歯列矯正で不自由であったから等の理由から子どもの歯磨きを大切に思い、熱心に歯磨きをさせている方もいらっしゃいます。

恵さんの悩みは毎食後の3歳の長女の歯磨きです。逃げ回る長女を追いかけ、羽交い絞めにして泣き叫ぶ子の口に歯ブラシをねじ込んで「泣くんじゃないの」「噛んじゃダメでしょ」「危ないから静かにして!」と怒りながらで大騒ぎです。恵さん自身にとってもストレスで悩みの種です。最近では、長女は食事に時間がかかり箸やスプーンを落とし、歯ブラシをゴミ箱に捨ててしまうようになってしまいました。子どもにとってもストレスになっているのです。

上記のように歯の健康は、子どもにとって大切なことです。歯磨きをするとすっきりして気持ちがいいです。健康上からも気分的にも習慣として身につけさせたい“しつけ”の一つです。しかし、恵さん

の家庭では歯磨きは気持ちがいいものではなく、叱られ苦痛なものになっています。更に、子どもの健康に気遣う親の愛情は子どもに理解されることもなく、親は子どもにとってイヤなことを無理やりにさせる人、怖い人になってしまいます。子どもは拒否すればもっと怒られるので逃げることもできず我慢するしかないのです。愛情や親としての責任からしていることなのですが、親が気づかないうちに、親子関係に亀裂が入っているのです。



このような例は、歯磨きだけではありません。学校や塾に勉強や宿題のやり方・どの程度するか、ゲームやテレビの時間、習い事の家での練習等々あります。

時間がないからと治療を中断する親と泣かせてでも歯磨きをする親。言いかえれば、子どもが抵抗するからといって面倒を避けるように何かをさせることを止めてしまう親と長い説得や脅しをしてでもやらせる親。

親子関係と子どもの心はどうでしょう。前者は、いやなことを押し付けられないので、子どもの気分はいいでしょう。抵抗すればいやなことから逃れられると思ってしまい、親のいうことをきかなくなるでしょう。成長につれ、わがままはエスカレートします。欲求は大きく高額にもなるでしょうし、その求め方も強くなります。そんな子どもを親が愛することは難しく、親子の関係は損なわれてしまうのです。

一方無理強いをした場合は、子どもが抵抗して親子げんかになるか、抵抗をあきらめて悲しみや不満を抱えながらも親の言いなりになるでしょう。親には心を閉ざすようになり、新たなことへの挑戦の意欲は持ちにくくなります。子どもの方から、だんだん離れていくのです。

では、どうしたら親子関係を大切にしながら躾ができるのでしょうか。まとめてみました。

- ① どうして歯磨きなどをやらなければならないのか、やった方がいいのかを子どもに分かりやすく伝える。
- ② 子どもなりのやりたくない理由を聞く。(親が言い訳と思えるものでも)
- ③ やりやすい環境をつくる。
- ④ 子どもにだけやらせるのではなく、親も一緒にやり続けてその姿を子どもに見せる。
- ⑤ 子どもがやったことを認め褒める

このようにしても、子どもは継続し身にはつきません。行きつ戻りつしながら長い目で見る必要があります。親が話をして、子どもの思いを聞いて。バランスを取ってみませんか。時間と手間がかかります。でも、その中に、親でなければ味わえない喜びもたくさんあります。

県内の相談場所

・ 家庭教育の悩みや不安について

白井市教育委員会教育部教育センター室 TEL 492-2301
県子どもと親のサポートセンター TEL 0120-415-446
(障害のある・あるかもしれない子どもの養育や教育について)

県総合教育センター特別支援教育部 TEL 043-227-1166

・ 養育上の悩みや非行・虐待などについて

白井市家庭児童相談室 TEL 497-3477
中央児童相談所(子ども家庭110番) TEL 043-253-4101
社会福祉法人 千葉いのちの電話 TEL 043-227-3900

・ 子どもの非行などについて

千葉県警少年センター(ヤングテレホン) TEL 0120-783497

・ 教え・育てる ウェブサイト 「親力アップいきいき子育て広場」

http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi_pc/ (PCサイト)
<http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi/> (携帯サイト)